

1 市民の自立・市民自治に向けて

これからの社会は、人口減少や高齢化が加速することによって税収の減少、地域コミュニティの崩壊、生活機能の縮小、防災力の低下等がますます懸念される。また住民の中には、すべての公共サービスを官で行うべきだと思っている方も年々増えている。

(1) 現在、「官」としての磐田市で行われている業務・事業の見直し、優先順位のつけ方について、以下を伺う。

- ① 業務・事業の見直し、優先順位はどのような方法でつけられているのか伺う。
- ② 見直し・優先順位のつけ方等で改善すべき点は、どのようなことか伺う。
- ③ 予算編成にあたり、新規や拡大事業だけでなく、見直し特に継続しない事業とその理由を明示することはできないのか伺う。

(2) これまでの地域コミュニティは、血縁や地縁関係で維持をしてきた部分が多く、阿吽の呼吸で維持ができていた。現在は核家族化が進み、新興住宅地に住居を構えることが多く、隣近所との関わりも少ないため、地域との関係が薄くなり、地域共同体の結束・連携も弱いものとなってきている。

このようになってきている中でも、やはり顔の見える地域コミュニティづくりは非常に重要であると思う。そこで住民と地域との関わり方が変化している中において、現状の課題をどのように整理し、どのような社会を作っていきたいのか伺う。

(3) 公共サービスの担い手について伺う。

磐田市総合計画には、「課題を解決し、明るく元気なまちをつくっていく原動力となるのは人そのものであり、そこに住む人々が互いに信頼で結ばれ、支え合い、助け合うことによって高まる地域の力こそがまちの力になる」と表記され、人材の重要性がうたわれている。

また中期財政見通しでは、ながふじ学府一体校や(仮称)磐田市文化会館建設等があり32年度までは投資的経費が100億を超える予算

が予定されている。このような状態の中で、官だけで公共サービスを充実させていくには、限界がある。民間企業が新たに参入して地域を活性化することも多くを期待できない。こうした中で地域社会を維持し、活性化を図るためには、総合計画にも書かれているように、そこに住む人そのものが原動力になることが必要である。地域住民自らが協力し、地域の課題解決に積極的に取り組むことが重要な解決策と考え、以下を伺う。

- ① 公共サービスの担い手を官・民間・住民などそれぞれが役割を担う中で、どのような連携やスタイルが望ましいと考えているのか伺う。
- ② 市民満足度を上げていくために、官・民間・住民等に対して、どのような人材（人財）像を持ち、どのように育成していくのか伺う。
- (4) 自立という視点で生活者である住民に期待していることは何か伺う。
- (5) (仮)自治基本条例の策定において前向きに進めていくとのことだが、この策定プロセスにおいて、今後どのような点を重視し進めていくのか伺う。
- (6) 以上の点を踏まえて、職員の人材育成をどのように行っているのか伺う。また今後の新しい取り組みがあれば伺う。

2 まちづくり全般

- (1) 昨年の磐田市内の大規模停電の際、少なからず混乱があったと認識している。特に学校内における停電時の課題・対策について、以下を伺う。
 - ① 昨年の停電時にどのような課題があったか伺う。
 - ② 昨年の停電以前の対応はどのようになっていたのか伺う。
 - ③ 停電により通信機器が使用できない時、教育委員会との連絡はどのように行うのか、また保護者との連絡はどのように行っているのか伺う。
 - ④ 発電機等はどのような基準で整備されているのか伺う。
 - ⑤ 断水対策はどのように行っているのか伺う。
 - ⑥ 課題等をどのように検討・修正・改善をし、周知したのか伺う。
- (2) 災害時の安全ならびに衛生対策について、以下を伺う。
 - ① 災害時における避難所等も含めた市内の家庭ごみや災害ごみの回収、仮設トイレの設置、し尿処理など公衆衛生管理についてどのような取り決めがあるのか伺う。
 - ② 災害時の公衆衛生管理のために民間企業とどのような災害協定を結んでいるのかうかがう。また近隣市町とはどのような連携をとっていくのか伺う。
 - ③ 昨年の停電時の経験を踏まえて、電力会社とどのような話し合いをし、今後役に立てていくのかを伺う。
- (3) 新たに「中学生全体を支援していく」との考えが示されたが、総合計画や実施計画にどのように組み込まれているのかを伺う。
- (4) レストランハーモニー閉店後、公募が開始された。今後、新造形創造館をはじめ隣接する他施設との連携による活性化についてどのように考えているのか伺う。